

## <謝辞>

本シンポジウムは東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所基幹研究「アフリカ文化研究に基づく多元的世界像の探求」、日本学術振興会ナイロビ連絡センターの助成をうけて開催した。基礎研究の振興に資するべく、本シンポジウムの開催にご理解をいただき、記して感謝の意を表したい。

またこうしたフィールドワークのアプローチや手法に関するシンポジウムは、今回のように、小規模で、ざっくばらんな雰囲気でおこなわれる必要がある。なぜならフィールドワークは、実際本シンポジウムで話題となったとおり、研究者や調査助手、現地の人びとの公私隔てない関係や、研究者個人の失敗と成功が多様な形で表出するものである。したがってフィールドワークについて話をするのは、大なり小なり気恥ずかしさが伴う。

フィールドワークについて本シンポジウムで取り上げた重要性は別途のべたが、やはり気恥ずかしさは懸念の一つであった。今回は話題提供者が話しやすい場の雰囲気を予め申し合わせられるよう調整するなど、国内外の研究者らと継続的に連携している本基幹研究の研究者が準備の早い段階から関わっていた。かつ、それを後ろだてる現地の学術交流拠点の存在が、準備を大変円滑なものとした。こうして、本シンポジウムは、本基幹研究班と、よびかけに応じてくれた日本およびアフリカ研究者ら、現地の学術交流拠点たる日本学術振興会ナイロビ連絡センターの支援を受けて成功裏に閉会した。また何より、この成功には、アフリカの各地でフィールドワーカーをうけいれてくれた調査助手を含む友人たちの存在も欠かすことはできない。この場をかきりて関係するすべての方にお礼を申し上げたい。